

移動と接触の観光社会学

Tourism Sociology on Mobility and Contact



遠藤 理一
ENDO Riichi

講師
Lecturer

専門領域 Areas of expertise

■観光社会学
Tourism Sociology

■観光史
History of Tourism

主な担当科目 Subjects

■観光文化論

■観光文化特殊講義 A

研究活動 Research

ツーリズムに関する理論と事例から、国境を越えて形成される社会・歴史について探っています。とくにツーリズムを資本主義、植民地主義、戦争や災害の歴史と結びつけて捉えるとともに、ツーリズムがそうした状況に対して/の中で何を生み出すのかを考えています。

①占領期日本(1945-52)におけるツーリズム

占領期の日本における観光政策・行政・事業および観光旅行について調査研究してきました。この時期は戦争末期の休止期間を経て観光政策・行政・事業が再開されはじめた時期であり、国際観光事業や観光まちづくりがデモンストレーションされ、その意義が主張された時代でした。また多くの連合軍関係者や国際観光客が、ときに米軍や旅行会社のツアーを利用しながら、日本を旅した時代でもありました。こうした例を調査しながら、ツーリズムと占領・復興・冷戦の関係性を探っています。またそのような流動的な社会におけるツーリズムの役割について、現代では必ずしも目立っていない面も含めて探っています。

②「移動的な社会」におけるツーリストの経験についての理論的・実証的研究

(1)ツーリズムが人や事物の移動が盛んな社会においてどのような役割・意味をもっているのかについての理論的な検討を進めています。

(2)ツーリズムがいかにナショナルな秩序に関わらない出来事を生み出すのか、そこにどのような意味があるのかを探っています。例えば占領期における連合軍関係者の日本人々への共感や、共感できなかった経験について。また、現代日本における中国からの旅行者の、日本のマナーに関わる経験やリアクションについて研究しています。

ゼミ活動 Education

観光社会学の視点から、ツーリズムないしは人の移動と接触についての理解を深めることを目指します。ゼミは文献・史料の読解、フィールドワークを中心に構成します。

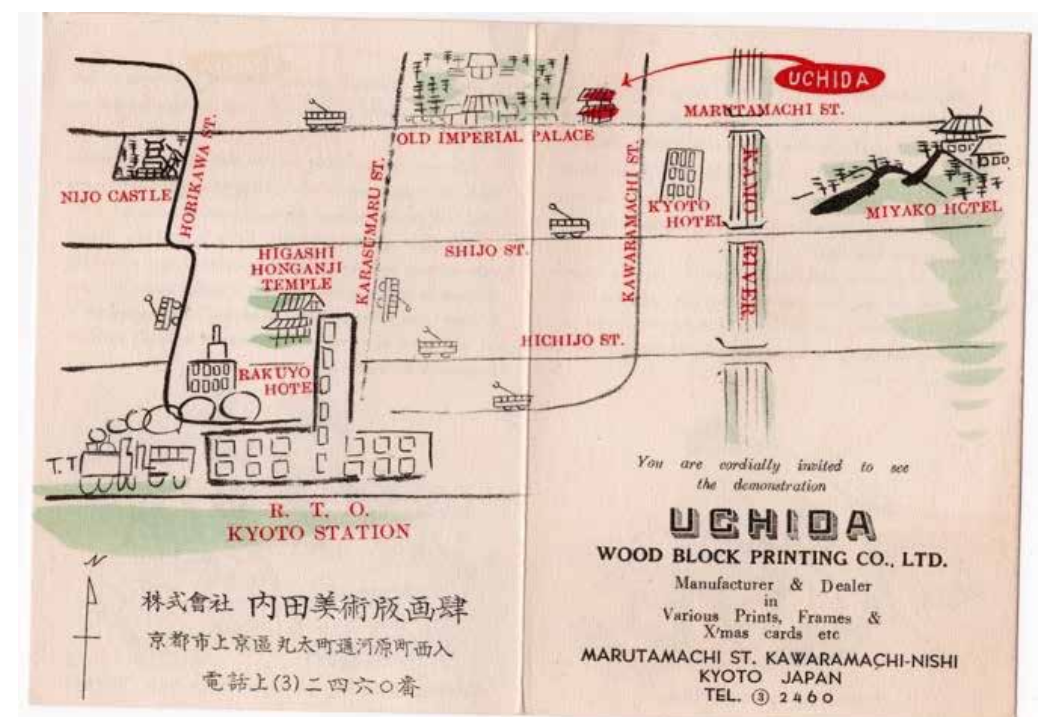
フィールドワークを通じて、(1)現場で起こる「観光現象」をよく観察し、そのダイナミックさ、あるいは繊細さを際立たせることを心がけながら分析・記述します。また(2)歴史的な出来事が現代の観光の現場で、どのように配置され、描かれ、語られているのかを考えます。ほか史料調査を通じて、ツーリズムを時代による差異と共通点を意識しながら捉えられるようになることを目指します。学会ポスター発表、他大学との研究交流も検討中。

- 例えば以下のような研究テーマに取り組むことができます(その他のテーマも応相談)。
- ・「オーバーツーリズム」のような「すれ違い(discommunication)」に関わる観光の現場、ツーリストやホスト社会の人々の経験に関する研究
- ・近畿地方における階級・階層をめぐる「観光のまなざし」と「文化の客体化」に関する研究
- ・「エスニック」な街や食に関する観光社会学的研究
- ・観光の歴史あるいは「歴史を観光すること」に関する研究



GHQ経済科学局による日本の観光振興に関するレポート“Program For Promotion of Tourist Trade”表紙、1950年発行(米国立公文書館史料 NWCTM-331-UD1787-8334)

京都の版画工房・内田美術版画肆が連合軍関係者に配布した宣伝カード(筆者所蔵)。京都駅が鉄道輸送事務所(RTO: Railway Transportation Office)として、関西電力京都支社ビルが外客・連合軍関係者向けのラクヨウ・ホテルとして用いられていた。主要な通りには市電が走っていた。



蔵造りの街並みで有名な川越市での「洋館」フィールドワーク
協力:川越市シルバー人材センター、旧山崎家別邸

池袋西口北でのフィールドワークにて中華料理フードコート「友誼食府」



tourism

Love your place
Share it with the world